

1986年11月13日北海道沼田町付近の地震 ——町防災担当者の立場から——

沼田町役場 千葉 繁

床につくには、まだ少し早いが昨夜のちと、飲み過ぎもあって、そろそろ寝ようかと思っていたそのときである。突如「ドカーン」と云う大きな音と共に突き上げられるような鋭い衝撃がきた。と同時に今度は、「ダダダ・ダーン」と家中がバラバラになるのではないかと思う様な激しい揺れである。食器棚、茶ダンス、人形ケース、植木鉢など、その辺の物が一斉に激しい音と共にくずれ落ちそして床にくだける、壁には稻妻のような亀裂が一筋、二筋と走り埃が舞い上がった。あっ、ダンプが家に飛び込んだ。と一瞬そう思ったがなかなか止まらない揺れに地震と解ったが、家には室内と私の2人、ただ茫然と身動きも出来ずつ立っていた。地震が終るまでの間、どのくらいの時間であつただろう、後の話しだが短かく感じた人で約10秒、長い人では1分以上とまちまちであるが、話を総合すると約20秒前後のようにある。

気が付くとテレビが、台から転がり落ちそうになり乍ら、なおも真面目にしゃべっているその格好が、いかにもこっけいで思わず2人顔を見合せて吹き出しが、このことで動搖していた2人もようやく我に返る。一方町役場には、被害を心配して町長を始め職員が馳せ参じていた。各自治体には災害発生に備えて防災組織体制が確立されているが、こうした有事には各関係機関の機能すべてを駆使し、町民の生命、財産を災害から保護しなければならないことになっており職員の一刻も早い出動が求められているのである。今回も有事と判断した職員約20名程が参集した。

協議の結果、集った職員で被害の状況を調査することとし全員の招集は被害の程度によって行うこととした。直ちに町長を本部長とし本町全域を中部、東部、西部に分けて、各班4~5名づつの調査班を編成する。地震発生から約30分である。それぞれ、自分の調査区に向けて暗い雪道に分散する。この間テレビでは何度も地震情報を流していたが、それが弱震または微震と報道されており、自分の感覚との間に差があることを疑問とする。

調査を終って帰って来た各班の結果では、幸い人身には事故がなく、家屋、道路等についても大きな被害は無いようだった。そんなことからか、一時の騒ぎの割りには市街も平穏に寂静

まったくようである。翌日は、地震の被害報告が続々寄せられ最終的には別表のとおりまとまつたが、煙突が倒れたりタンスが横倒しするなど、特に市街を中心にして南西部地区に被害が集中しており、モルタル、タイルなどのひび割れ脱落が目立った。公共施設についてもコンクリート壁、柱などに亀裂が生じ、また大判ガラスが割れるなど被害も大きかった。

本町の災害と云えば、大火・風水害であり地震による災害は今まで見ていない。発生があっても小さな震動を受ける程度で地震に関しては本町は安全地帯と考えていたのである。それがいきなり足元からドカンときたのだから驚いたのは無理はないが、発生以来、無気味な余震が日を置いては発生するため再び激しい地震が襲うのではないかと不安と緊張の日が続いた。事実、屋根に積った雪が落ちても、突風や自動車などで家が揺れる度に地震ではないかと、神経をとがらし自分でもノイローゼになったのではないかと思う程であった。

住民も、地震はいつ始まるか、発生の原因は、その対策は、と日を追って内容もエキサイトしたものになり、そしてついに何月何日、大地震が発生すると云う、あらぬ噂まで流れ出す始末である。

町も住民のこうした不安を取り除くため、札幌管区気象台など確かな機関から確かな情報を得て住民に周知するが、こと地震に関しては、こうですと絶対的な表現がないだけに情報は、安心どころかかえって気持の苛立ちを招いた。無理難題を承知で、何かその対応策はないものかと切実な願いなのだが町としても発生の事前予知と未然防止は不可能である。こうして発生から約2週間を過ぎた。11月29日、北大理学部地震予知観測地域センターの先生方が来町し、今回の地震は内陸型の特質なものであり、研究のため地震測定器を当町に設置をしたいと云う願ってもないお話しである。本当に有難く感激した。計器設置後も地震は発生したが、住民の気持は一変していた、沼田の地に計器が設置されたと云う心強さ、終始身辺を身近かに守ってくれていると云う安堵感である。この地から打ち出されたデータは、確かなものから信頼される情報へと変って行ったのである。北大の先生方も地震の度に飛んでこられ、データをこまかく分析しては、地震が沈静に向っていることを説明していただいた。このことを知った町民は、すっかり安心し切って、今迄の「カリカリ」とした気持はどこへ行ったかと思うのである。そしてこの現地調査は、暮れも押し迫った12月30日まで続けられたのである。心から感謝と敬意を表するものです。その計器は今もなおこの地で精密にしっかりとデータを送り続けている。

地震の恐しさを初めて体験した私達はさまざまな教訓を得た。何にごともそうであるが、特に災害においては、少しでも勝手な行動は許されないこと、地震への防災対策、発生時の住民への対応、観測体制の確立など多くあるが、最も大切なことは、災害に対する住民のしっかりした心構えであることを改めて知った。

行政区分	住 家 被 害		商 工 被 害			農 業 被 害		被 害 額 合 計
	一部破損	被害金額	商業	工業	被害金額	営農施設	被害金額	
市内第1東	2	2,050	4		77			2,127(千円)
市内第1南	1	100	3		310			410
市内第1北	7	1,550	3		107			1,657
市 内 第 2	1	100	2		1,050			1,150
市 内 第 3	3	22,300						22,300
市 内 第 4	5	250	2		51			301
市 内 第 5	1	180						180
市 内 第 6	8	190						190
市 内 第 7								—
南 町	2	200						200
緑 町								—
西 町	2	39						39
旭 町 東	2	35						35
旭 町 西	1	50						50
沼 田 第 1	1	50				1	50	100
仲 町 東	13	2,870						2,870
仲 町 西	2	120						120
沼 田 第 3	1	50						50
沼 田 第 4	8	550						550
沼 田 第 5	3	210						210
沼 田 第 6								—
高 穂 第 1								—
高 穂 第 2	1	30						30
共 成 第 1								—
共 成 第 2						1	15	15
共 成 第 3	1	50						50
東 予 第 1								—
東 予 第 2								—
更 新 第 1	5	295						295
更 新 第 2								—
更 新 第 3	4	180						180
真 布								—
北 竜 第 1								—
北 竜 第 2	1	150						150
北 竜 第 3	7	2,600				1	10,000	12,600
恵 比 島 第 1	1	50						50
恵 比 島 第 3			1		9			9
恵 比 島 第 4	1	300						300
幌 新								—
合 計	84	34,549	15	6	1,604	3	10,065	46,218

土木被害状況(最終)

施設名	被害内容	被害金額
一 道 路 一		
南仲小路線道路	舗装クラック 延長12m、巾1~3m	200,000
東1丁目線道路三用地先	道路隆起 4 m ²	100,000
築紫南線道路	舗装クラック 延長7m、巾1~3m	100,000
更新3号線開拓地道路	路肩クラック 延長100m、巾1~3m	200,000
	小計	600,000
一 橋 梁 一		
東栄橋	親柱2基クラック	100,000
更新1号橋	親柱2基クラック	100,000
南4号線橋梁用地先	舗装クラック 延長9m、巾1~3m	200,000
	小計	400,000
一 排水路、その他一		
原野中央線排水路	片側プロック崩壊 延長4,000m	500,000,000
徳永の沢排水路	レトラフ崩壊 延長500m	60,000,000
東予排水路	親柱及び柵板傾倒及び亀裂 延長460m	70,000,000
白木沢ダム	放水路工亀裂 延長39.30m	150,000,000
沼田第2幹線頭首工	両岸下流倒壁傾斜及び亀裂 延長32m	30,000,000
	小計	810,000,000
合 計		811,000,000

非住家被害状況(最終)

施設名	被害内容	被害金額
一 公 共 建 物 一		
役場 庁舎	正面玄関壁亀裂外19ヶ所	400,000
沼田町民会館	ホール天井崩落外16ヶ所	190,000
北空知給食センター	給水管水洩外25ヶ所	3,650,000
共成第3会館	集合煙突破損外	20,000
北竜第3会館	〃、壁亀裂及び破損外	2,560,000
(5)		
	小計	6,820,000
一 そ の 他 一		
沼田町農業協同組合	玄関ガラス破損外	1,630,000
沼田町商工会議所	壁亀裂、窓ガラス破損外	900,000
(2)		
	小計	2,530,000
合 計		9,350,000

公立文教施設被害状況(最終)

施設名	被害内容	被害金額
沼田小学校	壁亀裂、備品破損、ボイラー外	2,000,000
〃中学校	〃	700,000
〃幼稚園	〃	3,000,000
計		3,000,000

社会教育施設被害状況（最終）

施設名	被害内容	被害金額
沼田町公民館	窓ガラス破損外12ヶ所	700,000
計		700,000

社会福祉施設被害状況（最終）

施設名	被害内容	被害金額
沼田町社会福祉センター	外壁亀裂外10ヶ所	100,000
計		100,000

被害総額 870,368,000円

地 震 報 告

項目	件数	被害金額(千円)	項目	件数	被害金額(千円)	
人 的 の 被 害	死 亡		被 害	共同利用施設		
	行 方 不 明			営 農 施 設	3 10,065	
	重 傷			そ の 他		
	軽 傷			計	3 10,065	
	計					
住 家 被 害	全 壊		土 工 事	河 川		
				海 岸		
				砂 防 備		
	半 壊			道 路		
				橋 梁		
				小 計		
	一 部 破 損	85	本 市 町 村 工 事	河 川		
		84		道 路	4 600	
		337		橋 梁	3 400	
	床 上 浸 水			小 計	7 1,000	
		被 害	港 湾			
			漁 港			
	床 下 浸 水				崖 く ズ れ	
					排 水 路	3 630,000
					頭 首 工	1 30,000
	計		85	ダ ム	1 150,000	
			84	計	12 811,000	
			337			

項目		件数	被害金額(千円)	項目		件数	被害金額(千円)		
非住家被害	全壊	公共建物		水産	沈没・流出				
		その他			破損				
		公共建物	5		計				
		その他	2		漁港施設				
	計	公共建物	5		共同利用施設				
		その他	2		その他施設				
農業	農地 ha	田		被害	漁具(網)				
		畑			水産製品				
	農作物 ha	田			その他				
		畑			計				
	農業用施設								
林業被告	道有林	林地		公立文教被害	小学校	1	2,000		
		治山施設			中学校	1	700		
		林道			高校				
		林産物			その他文教施設	1	300		
		その他			計	3	3,000		
		小計		社会教育施設					
	一般民有林	林地		社会福祉施設	公立立法人	1	100		
		治山施設			計	1	100		
		林道			都市施設				
		林産物			その他				
		その他			他				
		小計							
計									
衛生被害	水道			その他					
	病院	公立							
		個人							
	一般廃棄物処理施設								
	計								
商工被害	商業		15	1,604	被害総額		870,368		
	工業								
	その他								
	計		15	1,604					
参考	異常現象等の状況								
	交通通信水道等の状況								
	応急対策出動人員(延)		市町村職員	名	消防職員	名	消防団員		
摘要						名	その他(住民等) 名		